

シソーラス用語の解析によるアスベスト研究の動向

青木 仕
順天堂大学図書館

[はじめに]

最近アスベストに関する記事を頻繁に新聞紙上で目にする。アスベスト障害は薬害エイズやヒブリノゲンによる薬害肝炎と同様に今日社会問題化している。我が国では、高度経済成長期にアスベスト(石綿)は非常に有用な建築資材として大量に使用された。アスベストに対する対策はアメリカやフランス、イギリスなどの諸外国に比べ我が国の行政の対応の遅れが問題視されている。

アスベストによる人体への影響は、アスベストを暴露してから平均 35 年後が中皮腫の発症のピークとされ、我が国においては今後 10~20 年後にますます罹患者数が増加すると報告されている。

筆者は、昨年の本大会において「アスベスト研究における公衆衛生学分野の位置づけ」と題してアスベスト文献の生産数の時系列的推移や 2-Step・Map を用いて公衆衛生関連分野のコア雑誌を抽出し、抽出したコア雑誌に掲載のアスベスト論文についてその調査研究法を分析した。それらからアスベストに関する公衆衛生学分野の研究はどのようになされ、どのような位置づけにあるのかを検証した。今回は、アスベスト文献に付与されているシソーラス用語の解析によってアスベストに関する時系列的な研究動向を調査する。

[方法]

日本語のアスベスト文献は、医中誌 WEB でキーワードを「アスベスト」と入力し検索した。海外文献は、PubMed でキーワードを「Asbestos」or「Asbestosis」と入力し検索した。調査日は、平成 20 年 5 月 1 日である。

[結果]

医中誌 WEB によるアスベスト国内文献は、2566 件が抽出された。PubMed による海外文献は 11209 件であり、アスベストを中心主題にした文献を MeSH Major Topic を用いて絞り込むと 7176 件が抽出された。国内文献の生産は、2005 年 132 件から 2006 年 493 件と 3.7 倍と増加していた。その増加要因を論文種別で見ると、解説記事、会議録の増加によるものであった。アスベスト原著文献に付与されているシソーラス用語は、「中皮腫」、1999-2002 年から「職業性暴露」2003-2006 年から「女」などの用語が増加していた。近年はチェックタグが増加していた。海外文献では、1985 年と 2005 年を比較するとシソーラス用語に大きな違いはなく、2005 年に Occupational Exposure(職業上の被曝)が特徴的な用語として上位に抽出された。

[考察]

2005 年 6 月、大手機械メーカーのクボタはアスベストによる中皮腫が工場周辺住民に多数発症していることを認め、この報道を契機にアスベスト災害は社会問題としてクローズアップされるようになった。これらの状況に伴って国内文献は近年増加傾向にあり、その要因は解説記事の増加によるものであった。中皮腫の発症数は、女性が男性の約 3 割と少ない。近年シソーラス用語に「女」が数多く抽出され、女性を対象にした研究も増加傾向にあることが確認された。